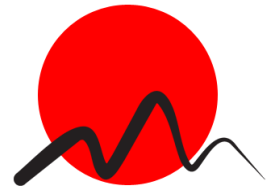


Slovenia Monthly June 2018

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2018年7月5日



～6月の主なポイント～

- 内政：**
- ・トニンNSi党首が、「左派」を除く全政党の支持を得て国民議会新議長に任命
 - ・シャレツLMS党首は、中道左派のSD, DeSUS, SMC, SAB及び中道右派のNSiとの間で連立交渉を開始された旨発表した。合意成立の見通しは不透明
 - ・ヤンシャSDS党首は、「いかなる協議も有益であり、現在は状況を見守るのみ」とコメント
- 外政：** スロベニア、国境線画定問題を巡り、7月中旬にもクロアチアを欧州司法裁判所に提訴
- 経済：** 住友ゴム工業子会社ロンストロフ社の新工場が西部ロガテツ市で建設開始
- 治安：** ツェラル首相、オーストリア軍・警察による国境防護訓練の実施に抗議

政治

新政権樹立に向けた動き

●トニン・新スロベニアイニシアティブ(NSi)党首の国民議会議長任命

22日、トニン・新スロベニアイニシアティブ(NSi)党首(Mr. Matej Tonin)は、「左派」を除く全議会政党から80票の支持(無効票1)を得て、国民議会の新議長に選出された。同議長は、カムニク市出身の30歳。リュブリャナ大学政治学科を卒業後、NSiの広報アドバイザー、広報関連会社社長等を経て、2011年に当選。今年の選挙直前にNSi党首に就任し、今次選挙では2議席増の7議席を獲得した。同議長は、「政治の安定のためには、迅速な議会開会及び議長の確実な選出が望まれていた」とコメントし、自身の議長としての立場が暫定的なものである可能性があることは認識している旨発言した。

●主要政党の動き

民主党(SDS, 中道右派)

6日、第一党となったSDSのヤンシャ党首は、安定した政府を発足させるべく全力を尽くすとの抱負を述べた。同党首は、「有権者は、支持した政党に拘わらず、早急に安定した政府が発足し、蓄積された諸課題に取り組むことを望んでいる」として、SDSとの連立を否定している政党も含め全政党に対して連



(トニン新国民議会議長、写真: Onaplus.si)

立交渉へ招待する意向を改めて表明した。

15日、SDSは、同党が作成した連立に関する合意書案を全政党に対して送付する旨公表した。SDSは、選挙後に表だった動きが見られなかったが、他党関係者によると水面下で非公式な協議が行われている模様。

26日、ヤンシャ党首は、LMSを主軸とする中道左派5党とNSiが、連立樹立に向けた会合を開催したことにつき、「同会合は連立交渉の第一歩であり、いかなる協議も有益である、SDSは既に連立合意書案及び交渉官の準備も整っているため、現在は状

況を見守るのみである」とコメントした。

「Marjan Sarec List」党(LMS, 中道左派)

7日、第二党となったLMSのシャレツ党首は、連立交渉に向けて、SDS以外の全ての政党に対して意図表明文書(LOI)を送付する意向を表明した。同LOIでは、公共の利益、親EU外交、国防予算の確保、オープンかつ革新的な経済、財政安定、医療制度改革等の14の共通目標が提案された。

22日、シャレツ党首は、LMS、社会民主党(SD)、年金者党(DeSUS)、現代中央党(SMC)、アレンカ・プラトゥシェク同盟(SAB)及び新スロベニア・イニシアティブ(NSi)が、トニンNSi党首を議長候補として指名したと発言し、上記6政党(全50議席)による中道左派を中心とした連立政権交渉が進行していることを示唆した。

26日、同党首は、連立樹立に向け上記6政党による初会合を開催した。LMS関係者によれば、同会合は今後の会合の進め方にかかる合意が目的であり、各政党の公約に関する交渉の行方は不明。

28日、上記6政党は、連立合意書を策定するのではなく、スロベニアにとり今後重要となるプロジェクトのリストのみを策定することで合意した。同党首は、連立交渉後に記者団に対し、交渉の結果は極めて正しいものであったと述べ、上記政党全てがプロジェクトをベースとした合意に同意したと述べた。

現代中央党(SMC, 中道左派)

13日、ツェラルSMC党首(首相)は、プラトゥシェクSAB党首と共に、シャレツLMS党首と会談し、同党としては「オープンかつ自由主義で未来志向の発展を目指す連立政権が望ましい」と改めて強調した上で、シャレツ氏率いる連立がこれに当てはまるとして、同氏が安定した連立政権を樹立できるのであれば同連立に参加する旨の意向を示唆した。また、ツェラル党首は、SDSとの協議の可能性を否定はしないものの、中道左派連立が実現した場合、SDSとは協力しない旨再度強調した。

27日、SMC執行委員会は、ブルグレス副党首(前国民議会議長)を除名することを決定した。SMCは、プレスリリースにて、ブルグレス副党首が党による決定事項に反するとして同氏の除名を決定したと発表した。28日、除名されたブルグレス氏は、「自分が、ツェラル首相(同党党首)に対し、SMC党首に立候補し、党首選出のための党大会を、11月の地方選挙後、明年5月の欧州議会選挙前に開催することを提案したことが、今回の決定の原因の一つである

う」との見解を示した。

年金者党(DeSUS, 中道左派)

15日、年金者党(DeSUS)は、同党総務会において、今次選挙にて議席を大幅に減らしたため辞任を申し出ているエリヤヴェツ党首(外相)の辞任の採決を行った結果、同党首は57票のうち44の支持票を得て、党首として留まることが決定した。同結果を受け、同党首は、山積する諸課題に対処すべく尽力すると抱負を述べた上で、連立交渉については、SDSとの連立の可能性を改めて否定すると共に、中道左派を中心とした連立交渉においても、年金者の立場を強調し厳しい態度で臨むと発言した。

新スロベニア・イニシアティブ(NSi, 中道右派)

3日、トニンNSi党首は、今次選挙の目標であった得票率10%を達成できなかったとして、辞任の意向を表明したが、12日、同党理事会は、同党首の留任を51票対9票で可決した。同結果を受け、トニン党首は、同党の支持に感謝し、今後の選挙では更に躍進する旨の決意を表明した。同党首は、LMSとの会談において、NSiの公約を提示し、特に医療機関における待ち時間の短縮及び官民両セクターにおける給与手取額の上昇は譲れない課題であるとして強調した旨明らかにした。

●連立樹立に向けた今後の見通し

トニン新国民議会議長は、自身のコメントからも示唆されるように暫定的な議長として選出されたとの見方が強い。今後、連立交渉の中で国民議長が変更される可能性がある。

中道左派5政党とNSiがトニン氏を議長候補として指名することに合意したことは、6政党(全50議席)による中道左派連立政権の樹立に向けた交渉が進んでいる可能性を示唆。他方、中道右派の民主党(SDS)及び右派の国民党(SNS)もトニン氏の議長任命に賛成票を投じており、SDSを中心とした中道右派政権樹立の可能性も否定はできない。

パホル大統領は、議会で審議が必要な重要課題が山積しているため、期限である30日以内でなるべく早急に首相候補を指名することが肝要と発言しており、今後8月末までに各政党が政権発足を目指すことが期待される。

(当館注:スロベニアでは、連立与党のうち第1党から首相、第2党から議長を選出する慣習があり、今後の連立交渉では、議長が交代する可能性がある。)

【その他内政】

●独立記念日における大統領及び首相の演説【24日】

独立記念日の前夜に、コングレス広場にて式典が開催され、同式典のスピーチにおいて、パホル大統領は、全体主義から民主主義へと移行し独立国家となったスロベニアの歴史を振り返った上で、「スロベニア人は、『国家の日』に際し、幸せを感じ母国に誇りを持つべきである」と述べた。また、トニン新国民議会議長は、同式典前に開催された儀式的な議会会合において、スロベニアの将来は自由、安全、正義の上に構築されるべきとして、また、多様性の尊重を呼びかけた。なお、ツェラル首相は、「我が国の独立は、何世代にもわたるスロベニア人の願いの上に成し遂げられた。今後も、人々は歴史のプラスの側面を祝することを期待する」と述べた。27年前の1991年6月25日、スロベニア議会はユーゴスラビア連邦からの独立宣言及び新憲法等を採択した。

【外政】

〈スロベニア・クロアチア間の国境線確定問題〉

●欧州委、欧州司法裁判所における対クロアチア訴訟に関する見解を発表せず【18日】

欧州委は、スロベニアがクロアチアを欧州司法裁判所に提訴することを計画していることに関し、欧州委の立場についての見解を発表せず、「解決策は二国間で模索されるべきであり、我々はそれを支援する用意がある」との方針を発表。これを受け、ツェラル首相は、「欧州委が見解を発表しなかったことは残念である」として、政府は21日にも訴状の内容につき閣議で審議を行う予定であり、提訴は7月中旬までに行うとの方針を発表した。パホル大統領も、「欧州委の姿勢には満足しておらず、欧州委は仲裁裁定の履行を進めるのに際し、政治的・法的支援を行う機会を逃してしまった」と批判した。

●欧州司法裁判所におけるクロアチアに対する訴状を閣議で情報共有【21日】

国境線画定に関する仲裁裁定の不履行を受け、スロベニアがクロアチアを欧州裁判所に提訴する準備を進めるのに際し、閣議において正式に訴状内容につき情報共有が行われた。エリヤヴェツ外相は、依然として技術的な側面を詰める必要があるとして、欧州司法裁判所への提訴前に、国民議会外交政策委員会にも訴状内容を提示するとの考えを示した。また、同外相は、基本的に訴状の準備は出来ており、いつでも提訴できる段階にあると述べた。

発見！スロベニア

「ストウルモル城」が英国の旅行誌により「2018年のユニークな城」に選出

首都リュブリャナの北に位置する13世紀の古城「ストウルモル城」が英国の旅行誌「Travel and Hospitality」により「2018年のユニークな城」賞を受賞しました。同城は、2012年に全面改修され高級ホテルに生まれ変わり、現在は、政府の儀典施設を管理する国営企業「JGZ Brdo」が所有しています。同城は、2013年に秋篠宮両妃殿下が当国をご訪問された際にお立ち寄りになりました。



同城が第二次大戦中に当時のユーゴスラビア政府に国有化される前の最後の所有者は、製菓会社及び織物会社を経営していたフリバル夫妻(Hribar)でしたが、大戦中に占領軍に協力した罪で、1944年に治安部隊により処刑されました。



(写真: Wilimedia commons)

同城は、スロベニア国内でも最も古く、保存状態の良い城で、国の文化財に指定されています。「ストウルモル城」は、一般客の宿泊も可能であり、以下のウェブサイトから予約出来ます。

<https://www.brdo.si/en/grad-strmol/strmol-castle>

スロベニアに迫る！⑨

カムニク市の「民族衣装・被服遺産の日」が「欧州の素晴らしい伝統行事20」に選出



(カムニク市, 写真: Belmondo Travel)

カムニクにて毎年9月に開催されるイベント、「民族衣装・被服遺産の日(The National Costumes and Clothing Heritage Days)」は英国のガーディアン(Guardian)紙による、「ヨーロッパの素晴らしい伝統行事トップ20」に選ばれました。約50の方言と24の異なる食文化の地域を持つスロベニアの文化遺産の多様性を伝える同イベントは、毎年約3万人以上の訪問者を魅了しています。今年は第48回目のイベントとなり、9月の6日から9日にかけて開催され、ファイナルパレードでは、豪華な地域衣装に身をまとった約2,000人の人々が参加予定です。



(写真: Visit Kamnik)

また、ガーディアン紙は、カムニク市を、「中世の雰囲気有するアルプスへのチャーミングな玄関口」として讃え、同市は、1万3千人という小都市であるにもかかわらず、13もの小規模なビール醸造所が存在するとして、ビール好きの観光客にはとても魅力のある街であると述べています。

●ツェラル首相、ユンカー欧州委委員長及び欧州委の対応を非難【28日】

ツェラル首相は、移民問題に関するEU首脳会合において、クロアチアとの国境線確定問題を巡るユンカー欧州委委員長及び欧州委員会による行動の欠如を強い調子で批判したと述べた。同首相は、「自分は、同委員長と欧州委に極めて批判的な姿勢を示し、真剣な協議を行った」と述べた。ユンカー委員長の反応につき同首相は言及を避けたが、同首相は、「同委員長は、彼の個人的な考えに基づき、欧州委の対応を正当化することを試みた」と述べた。

〈その他の外政〉

●元大統領・外相、新政権に対し、外交に注力するよう期待を表明【4日】

トウルク元大統領及びルーペル元外相は、新政権が外交政策により焦点を当てることに期待を表明した。同元大統領は、各政党は、外交政策の主軸は、スロベニアの国家主権及びEU・国際社会の中での立ち位置を確保することであると述べた。また、同元外相は、我々の外交政策には変化が必要だが、左派政権ではそれは困難であろうとし、仮に政策転換に成功しなければ、スロベニア外交は困難な状況に陥り、EU内でも孤立してしまうであろうと警鐘を發した。

●ユンカー欧州委員長、ヤンシャSDS党首に祝電を送付【4日】

国民議会選挙の結果を受け、ユンカー欧州委委員長は、第一党となった民主党(SDS)のヤンシャ党首に祝電を送付し、「次期政府が、民主的で、成功し、より強力なEUを築いていくために貴重な貢献を行っていくものと確信している」とのメッセージを伝達した。その他、クルツ・オーストリア首相も、欧州人民党(EPP)指導者のヴェーバー欧州議員のツイートに参加する形で、同党首に対し、祝意を伝達した。

●スロベニア外務省、クロアチアにおけるNLBに対する訴訟に懸念を表明【5日】

スロベニア外務省は、旧ユーゴ時代の外貨預金に関するクロアチアにおけるリュブリャナ銀行(LB)及び新リュブリャナ銀行(NLB)に対する複数の訴訟に対し、懸念を表明する旨の口上書を送付した。同口上書においてスロベニアは、22万2426ユーロと利子の支払いを両行に命じた4月10日の判決について、両国が批准している国際協定に反するものであると主張した。

●外務省・大統領、マケドニアの国名変更に関するギリシャとの合意を歓迎【17日】

パホル大統領は、本件合意は西バルカン地域における主要な問題への対処という観点からは、1995年の Dayton 合意以降では最も重要なものであり、地域全体に希望を与えるものと確信していると述べた。また、スロベニア外務省も本件合意の署名を歓迎すると共に、合意の迅速な履行後に、マケドニアのEU及びNATO加盟交渉を速やかに開始すべきであると立場を表明した。

●自由権規約人権委員会委員にスロベニア人が選出【14日】

スロベニア外務省は、国際法学者のヴァシルカ・サンチン氏(女性)が自由権規約人権委員会委員に選出されたことは、同氏の人権及び国際法分野での貢献が認められた結果として、スロベニアの国際的評価の向上に貢献するとして賞賛した。同氏はリュブリャナ大学副学長兼法学部教授を務めており、ジェノサイド、戦争犯罪、民族浄化及び人道に対する罪から人々を保護することを目的とした「保護する責任」の専門家として国際会議の共同議長を務めるほか、欧州「保護する責任」センターの委員も務めている。



(オルバーン・ハンガリー首相とヤンシャ党首、写真: Siol.net)

●ヤンシャSDS党首のハンガリー訪問【17日】

ヤンシャ社会民主党(SDS)党首は、ハンガリーを訪問し、オルバーン・ハンガリー首相との間で私的な会談を行った。オルバーン首相は、国民議会選挙での同党首の勝利に祝意を表明したほか、西バルカン諸国のEUへの統合等についても意見交換を行った。

また、MTI通信によれば、オルバーン首相との会談中に、トランプ米大統領との電話会談も行われた。

●スロベニア、米国の国連人権理事会離脱を憂慮【20日】

国連人権理事会の議長国を務めるスロベニア政府は、米国が同理事会から離脱することを決定したことは残念であるとの声明を発表した。また、スロベニア政府は、「米国政府が引き続き行動と提案により、国際社会において人権を促進及び保護することにより、人権理事会及びその基本的な理念を支持し続けることを期待する」との立場を表明した。同日、人権理事会会合においてスピーチを行ったパホル大統領は、「かかる米国の決定は、人権理事会のみならず、国連全体、そして米国自身にとり悪いニュースである」と述べた。また、同大統領は、「多国間枠組みは、平和と安定の維持及び発展のために必要不可欠である」として、スロベニアの、多国間主義の最も中心的な柱である国連への強いコミットメントを強調した。

●ツェラル首相、ドイツ等からの庇護申請者受け入れを否定【28日】

移民問題に関するEU首脳会合に出席したツェラル首相は、スロベニアは、ドイツやその他の国々からの庇護申請者の受け入れにつき如何なる二国間合意も締結する用意はないとの立場を表明した。また、同首相は、「ドイツに到達した移民をスロベニアに送還するのは、スロベニアが、移民にとって最初に入国した安全な国ではないという理由から受け入れられない」と述べた。同首相のかかる反応は、ドイツ政府が複数のEU諸国に対し、ドイツに入国した庇護申請者の一部受け入れにつき交渉を試みようとしていることを受けたものである。

●ツェラル首相、移民問題に関するEU首脳会合の合意を評価しつつも、国内での「移民センター」設置を否定【28日】

移民問題に関するEU首脳会合に出席したツェラル首相は、「EU加盟国首脳は、幾つかの重要な問題に関する団結を維持しつつも、今次首脳会談において合意することにより、小さいながらも正しい方向に向けたステップを踏み出した」として一定の評価を示した。今次会合においてEU首脳は、EU域外に「移民センター」を設置すると共に、加盟国も自発的に同様な「センター」を国内に設置することで合意したが、同首相は「スロベニアにおける情勢に大きな変化はなく、国内においてかかるセンターを設置する必要はない」との見解を示した。

発見！スロベニア

スロベニアのクラフト・ビール②

スロベニア・マンスリー1月号に続き、今回も密かなビール大国スロベニアのお勧めクラフト・ビールを紹介します。

「Loo-blah-nah(ル〜ブラ〜ナ)」

この奇妙な名前はスベルミスではなく、英語圏の人々の「リュブリャナ」の発音を茶化したものです。「Loo-blah-nah」は、「テクトニク(Tektonik)」に続いて2番目にリュブリャナ市内で創業したクラフトビールのブルワリーであり、リュブリャナ市のシンボルである「ドラゴン」が同ブルワリーのラベルに使用されています。お勧めは、イングリッシュ・ペール・エールで、その軽めで、フレッシュな味わいは、ロンドンのパブの味を彷彿とさせます。同ブルワリーでは、IPA、ゴールデン・エール、アンバー・エールや最も人気の高いベルギー・エールも製造しています。



(写真: City Magazine)

「Lobik Brewery」

スロベニア第2の都市マリボルにあるクラフトビールのブルワリー「Lobik Brewery」は、同市のサッカーチーム「NK Maribor」のUEFAチャンピオンズ・リーグ出場を記念して作られた紫色のビール「Champion」で一躍有名になりました。同ブルワリーのウェブサイト(FB)は、「我々は、スロベニアでのクラフトビールの進化における次世代を意味し、恐れ知らずで、高度な教育を受けた新世代に属する醸造専門家集団である。(他のビールメーカーを揶揄して)実際にホップをビールに入れることや、意図的に酸っぱいビールを作るなど新たな挑戦をしており、これは正にニューエージである。」とコメントしています。「Lobik Brewery」の代表的なビールとしては、「Hop Hazerd(ニューイングランド・エール)」、「Fruitpocalypse Now(アメリカン・ペール・エール)」、「Svarun(スロベニアのホップのみで作られたイングリッシュ・エール)」等がありま

す。



(写真: Pintaram)

「Barut Brewing and Blending」

同ブルワリーは、2017年に、酵母菌(野生株も含む)や乳酸菌の研究をしていた微生物学者3名がリュブリャナ北部のカムニク市に創業したブルワリーで、研究者ならではのこだわりの味のクラフトビールを製造し、ビール愛好家の間では「クラフトビール革命2.0」を引き起こしたとされています。現在、最も人気のビールはベルリン・スタイルのホワイトビール「Summer Snow」で、アルコール度数が低く、適度な酸味を伴う、非常にユニークな味のビールに仕上がっています。



(写真: Untappd)

Loo-blah-nah: <https://www.looblahnah.com/>
Lobik Brewery: <https://www.facebook.com/LobikBrewery>
Barut Brewing and Blending: <https://barutbrew.com/about-us/>

経済

●米商工会議所、米政府による鉄鋼・アルミ製品に対する輸入関税導入を批判【1日】

米国商工会議所 (AmCham) は、米政府が導入を検討している鉄鋼及びアルミ製品に対する関税は、雇用と世界貿易システムに対する脅威であるとして懸念を表明した。AmCham は、EU は、米国の国家安全保障に対する脅威とはなっていないことから、全ての条項において永続的な例外措置 (permanent exemption) の適応対象となるとの考えを示した。また、スロベニアのアルミメーカー Impol 社は、EU に対し、欧州の製造業者を保護するよう EU に対し要請し、ロシア企業が所有する鉄鋼メーカー「SIJ」社は、本件措置は、EU 諸国の製造業者のみならず、米国の消費者にも損害を与えるものであるとして非難した。

●スロベニア・カザフスタン経済協力委員会会合の開催【6日】

スロベニア・カザフスタン経済協力委員会会合が開催され、これまでの二国間経済協力を評価すると共に、今後の関係強化に向けた指標につき意見交換を行った。また、売電会社「Borzen」社及び電子機器メーカー「Iskratel」社を含む、スロベニア企業4社は、経済関係強化に向けた提案を行った。両国は、スポーツ分野での協力強化及びサイバーセキュリティ分野での協力強化についてもMOUに署名した。

●中国資本、マリボルのメディア会社から資本引き上げ【7日】

日刊紙「Vecer」は、マリボル空港管理会社を所有する中国企業の系列で、テレビ局、オンライン・ポータル及びフリーペーパーを運営する同市のメディア会社「RTSメディア」を所有する「Villa 1」社が、「RTSメディア」から資本を引き上げた旨報じた。同社傘下のテレビ局及びフリーペーパーは過大な広告料を徴収するわりに収益率が低いことが指摘され、同社は赤字を計上してきたが、「Vecer」紙は、今回の資本撤退は、フィシュトラヴェツ市長に有利な編集の方向性による広告料減少が理由であろうと分析している。

発見！スロベニア

世界 No1 女性シェフが経営する「ヒシャ・フランコ」が「世界のトップレストラン50」に選出



5月19日、西部コバリドのレストラン「ヒシャ・フランコ (Hiša Franko)」が、イギリスの雑誌「Restaurant」により毎年決定され、グルメ界のアカデミー賞とも称される「世界のベストレストラン 50」の第48位に入賞しました。昨年には、同誌により、オーナーシェフのアナ・ロシュ (Ana Roš) 氏が、世界女性シェフ No.1 に選出されています。

「ヒシャ・フランコ」は、Netflix の料理番組で一躍有名になり、地産地消の食材や、季節の素材を活かした同氏の料理スタイルは、国内外から評価も高く、連日賑わいを見せています。また、同氏のご主人はソムリエであるため、その日の料理にあったスロベニア・ワインを提供してくれます。とても人気があるため、ご予約は早めに行うことをお勧めします。



なお、日本勢では、東京・外苑前にある日本料理「傳」が、17位にランクイン。ほか日本からは、22位に「NARISAWA」(去年 18位)、41位に「龍吟」(去年 52位)と3店が50位以内に入りました。

●中国ハイセンス社によるゴレニェ社の買収【8～28日】

8日、パナソニックは、中国のハイセンス社による家電大手ゴレニェ社の株式公開買付(TOB)に同意し、同社が保有するゴレニェ社の株式10.74%にあたる262万株を売却することを決定した。

13日、ソブリンファンドの「KAD」は、ゴレニェ社が政府の民営化戦略において「重要企業」と指定されているため、KADが所有する16.4%の株式売却は困難との方針を示していたが、それを撤回し、株式をハイセンス社に対し、4800万ユーロで売却することを決定した。

28日、ハイセンス社は、5月29日から6月26日の間に株式の62.46%を取得した結果、TOB実施前に取得した株式32.96%と合わせると、95.42%の株式を保有することとなった。

●クロアチア人労働者の規制が撤廃へ【13日】

クロアチア人労働者のスロベニア市場へのアクセス規制措置の延長に関する現政権の提案が国民議会で審議される前に、選挙により議会在解散となったことを受け、7月1日から規制が撤廃されることとなる。本年3月、政府は、スロベニアの労働市場を完全にクロアチア人労働者に対し解放する前の暫定期間を2020年6月末まで延長する提案を国民議会に提出したが、スロベニアにおける労働者不足の懸念から、商工会議所及びポチヴァルシエク経済開発・技術大臣は規制措置の延長に反対していた。

●コペル港が中国の寧波港との間で協力強化に関する覚書に署名【14日】

寧波市において開催された「海上シルクロード港湾国際協力フォーラム」において、コペル港湾会社のザデル社長とNi Chenggang寧波港代表は、コペル港と寧波港との間での協力強化に関する覚書(MOU)に署名した。コペル港湾会社は「我々の目標は、船舶による輸送量増加を通じ、コペル港を通じて殆どの貿易を行っている中東欧諸国と中国との間の貿易量を拡大することである」との声明を発出した。

●S&P、スロベニアの長期格付けA+を維持し、観測を安定的からポジティブに上方修正【16日】

格付け会社スタンダード・アンド・プアーズ(S&P)は、スロベニアの長期格付けA+を維持すると共に、経済観測を安定的からポジティブに上方修正した。スロベニア財務省は、「本件決定は、スロベニア経済が正しい方向に進んでいるということを再度確認するも

のである」として歓迎する一方で、スロベニアは、財政健全化のプロセスを完了しておらず、将来的な財政危機に備えるために、更なる財政面での耐久性強化の必要性を訴えた。



(住友ゴム子会社ロンストロフ社鋳入式、写真； Delo)

●住友ゴム工業子会社の「ロンストロフ」社、精密医療用ゴム部品製造工場の建設を開始【27日】

27日、住友ゴム工業の子会社ロンストロフ社(スイス)は、西部ロガテッツにおいて、医療用精密ゴム製品製造工場の建設工事を開始した。工事開始は、NGOであるエコロジー運動協会(ZEG)が、既存の建物の屋根に使われているアスベストの扱いにつき懸念を示したことを受け、予定より1ヶ月遅延したが、同社とZEGは、解体工事におけるアスベストの撤去での協力及び監督体制につき合意したことを受け、ZEGは申立を撤回し、環境庁が環境許可証を発行した。なお、同社によれば、工場の操業開始時期は、当初の2019年4月から変更はないとしている。

軍事・治安

●スロベニア内務省、バルカン諸国での移民対策を提言【7日】

ボスニア・ヘルツェゴビナ治安省及びIOMの共催により、サラエボにおいて難民の「バルカン・ルート」に位置する国々の警察高官による会合が開催され、スロベニア政府が提案したものも含む、移民の動きをより効率的に管理するための措置導入が支持された。スロベニアは、不法移民の継続的な登録、情報交換及び難民申請手続きにかかる法律の悪用防止のための措置を提案した。シェフィッチ内務副大臣は、スロベニアの提案が受け入れられたことを歓迎すると共に、関係国による履行を呼びかけた。また、同副大臣は、従来のバルカン・ルートに加え、「アドリア・ル

ート」の発生に懸念を表明した。

●南東部チュルノメリ、雹により甚大な被害【8日】

8日夜、スロベニア南東部地域は雹の嵐に見舞われ、特にチュルノメリ(Crnomelj)市及びノボ・メスト(Novo Mesto)市では、リンゴの大きさに上る雹が降り、作物、車両及び家屋等が破損し、甚大な被害を受けた。これを受け、9日、ツェラル首相は被害状況を視察し、政府による支援を約束した。同地域では400以上の家屋が被害を受け、排気システムメーカー「Akrapovič」の工場も破損したため操業を停止しており、被害総額は約300万ユーロとされている。同首相は、「被害の全容を分析した後、学校や公共施設を優先しつつ地域の住民を支援してゆく」とした上で、今回の事象は、雹などの自然災害を事前に防ぐ、防災の取組が重要であることを改めて思い起こさせたと述べた。

●スロベニア警察、南東部国境において120名の移民の身柄を拘束【11日】

11日、スロベニア警察は、先週末にスロベニアに不法入国を試みた120名以上の移民の身柄を拘束した。移民は主に南東部のベラ・クライナ地域から入国を試み、同地域において拘束されたのは72名で、その殆どがクロアチアに強制送還された。

●ツェラル首相、オーストリアによる国境付近での国境防護訓練の実施に抗議【26日】

ツェラル首相は、オーストリア警察及び軍が、対スロベニア国境において実施した国境防護訓練に関し、スロベニアはシェンゲン国境を適切に警護していることから、かかる訓練は必要ないとして、挑発的であるとも言えると非難した。また、同首相は、かかる訓練は、移民の流入が増加していれば正当化出来るが、スロベニアからオーストリアの移民流入は記録されておらず、そのような状況にはなっていないと述べた。これに対し、キックル・オーストリア内相は、今次訓練はスロベニアに対する不信感を表したものではないと反論した。

●スロベニア軍、NATOによる戦闘準備度評価に合格【26日】

スロベニア軍部隊が、2月に行われたNATOによる陸軍の戦闘準備評価(CREVAL)に落第したことを受け、今般、再評価が行われ、必要とされている準備度に至っているとの評価を受けた。国防省は、今回の評価により、スロベニア軍は、今後4年間、NATOの作戦に参加可能となる旨発表し、カティッチ国防大

臣も、今回のNATOによる評価に満足している旨述べた。

社会・文化・スポーツ

●カヌー・スラローム欧州選手権でスロベニア人選手が優勝【2日】

プラハで開催された、カヌー・スラローム欧州選手権大会にてペテル・カウゼル(Peter Kauzer)選手が男子カヤック・シングル部門で金メダルを獲得した。また、同選手率いるスロベニアチームは団体戦で銅メダルを獲得。カウゼル選手はこれまでに、世界選手権大会においても、金メダル2つ、銅メダル1つ、またリオ・オリンピックでは銀メダル獲得等数々の成績を残している。

●スロベニア人登山家、「登山界のアカデミー賞」を受賞【12日】

「登山界のアカデミー賞」とも呼ばれる世界の優れた登山家に贈られる国際的な賞、ピオレドール賞の初のスロベニア人受賞者としてアンドレイ・シュトレムフェリ(Andrej Štremfelj)登山家が選ばれた。シュトレムフェリ氏は、現在はこれまでの数々の登山経験を生かしプロ登山ガイドとして活躍している。



(ドンチッチ選手、写真: Medium.com)

●男子バスケのドンチッチ選手がNLBのアトランタ・ホークスからドラフト指名【28日】

バスケットボール・スロベニア代表ルカ・ドンチッチ(Luka Dončić)選手は6月21日にブルックリンで開催されたNBAドラフト2018で、アトランタ・ホークスから全体3位で指名された。ドラフト当日に成立したトレードにより、同氏の交渉権はホークスからダラス・マーベリックスにトレードされたが、同氏がアトランタ・ホークスから得た全体3位の指名はこれまでにスロベニア人バスケットボール選手が得たNBA指名の中で、トップレベルのものとなった。

初めまして、トレイルランニング(山道を走るスポーツ。スロベニアではマウンテンランニングという表現も多く使われます。)を通じて世界中を転戦している宮地藤雄(みやちふじお)です。競技を通じて度々スロベニアを訪問し、この国の虜になり、縁あってスロベニア・マンスリーに寄稿させていただけることになりました。僕の旅や体験を通じて、見て感じて出会ったありのままのスロベニアについて綴っていきます。時に多少情報が古いことがあるかもしれませんがそのあたりはご容赦ください。ガイドブックでは知ることのできないようなことをお伝えしますので、僕と同じくスロベニアのファンになっていただけますように！



宮地藤雄 (ミヤチフジオ)
2013~2017 マウンテンランニング日本代表

駆け足でリュブリャナを楽しむなら

スロベニアは緑が豊か。もちろん、山々に足を運ぶことでその自然を満喫することは出来ます。しかし、限られた時間でめばしい場所を回るのは難しいもの。そこで第1回目は、首都リュブリャナで是非とも巡って欲しい場所をいくつかご紹介します。リュブリャナの観光スポットの大半は旧市街地区にありますので、今回は旧市街地区について紹介します。

1つ目は僕が一番好きな「竜の橋」。旧市街を横切るようにリュブリャニツァ川が流れており、そこにかかるのがこの橋です。四隅にはリュブリャナのシンボルである竜の像が鎮座しており、初めてリュブリャナを訪れて以来欠かさず通っている場所で、旅の安全を願います。ここは鉄板です。そして2つ目は中央市場。竜の橋から川沿いに少し足を延ばすと目の前に広がります。中央市場という名前ですがいわゆる青空市場です。果物や野菜・生活用品はもちろん、民芸品などもあるので土産探しにもってこいです。変わりダネはチーズと牛乳の自動販売機、そしてロウソクのお店でしょうか。多様な店構えで散策するだけでも十分に楽しめます。また、市場の向かいにはカフェが軒を連ねます。オススメはプレーシェン広場近くのカフェ。この広場には大道芸人やミュージシャンが集まり、しかもその演奏レベルは高く聴き惚れることも多々。丸1日人々の行き交う姿を眺めていたいほどです。



3つ目は聖ニコラス大聖堂。マーケットの裏手にあるのですぐわかります。ヨーロッパを訪れた際は、それぞれの街の教会へ必ずと言っていいほど足を運びます。日本でいうなら寺社仏閣同様、荘厳な建築や美術品が多く納められているからです。また、その町の歴史を知るのにもとても役立ちます。ニコラス大聖堂は人気の観光スポットでもありますのでミサの時間を避け、可能な範囲で早い時間帯に訪れることをオススメします。聖堂に一步足を踏み入れた時の静寂とひんやりとした空気を感じ、じっくりと鑑賞できるはず。まさに駆け足でリュブリャナの魅力について触れましたが、お勧めスポットに全て触れることはできませんでした。次回は宿泊しながら楽しむリュブリャナ滞在をテーマに寄稿させていただきます。どうぞお楽しみに！

在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。1月号では鹿児島県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●「ゴルゴ13×外務省 海外安全対策マニュアル(動画版)」

外務省では、2016年7月のダッカ襲撃テロ事件を受け、2017年3月、「ゴルゴ13の中堅・中小企業向け海外安全対策マニュアル」を政策し、外務省海外安全ホームページに掲載して参りましたが、この度、幅広い層にも安全対策に対する意識を高め、理解を深めてもらうため、同マニュアルを動画化しました。外務省海外安全ホームページ上に毎週1話ずつ、全13話が掲載される予定です。

(詳細は、http://www.anzen.mofa.go.jp/anzen_info/golgo13xgaimusho.html)

[広報文化関連]

●RTVスロベニアにて日本番組放映中！

“**Japanese Cuisine**”(京・ごはんたべ)：

– 京都の地をメインに和食文化に迫るグルメ番組

– 7月14日(土曜日)14:30より

– チャンネル: TV Slovenija 2

詳しくは <http://4d.rtvsl.si/program> をご覧下さい。